

## 小型船舶用膨脹式救命浮器の型式承認試験基準

製品試験						
試験方法			判定基準			備考
1	1	定員算定 小型船舶安全規則第50条により算定する。	1	1	4人以上であること。	
2	1	漏洩試験 100mmHgの空気圧を加えて、1時間及び24時間放置し、内圧の変化を調べた後、温度補正(3mmHg / 1 )を行い、漏気の有無を調べる。	2	1	1時間後は内圧の低下がなく、24時間後は内圧が原圧の90%以上であること。	
3	1	耐圧試験 200mmHgの空気を加えて10分間放置した後、異常の有無を調べ、かつ内圧を測定する。	3	1	1) 破裂、はがれ、その他の異常がないこと。 2) 内圧は原圧の95%以上であること。	
4	1	投下膨脹試験 5mの高さから水面に自然落下させ、炭酸ガス容器破壊弁の開放後、使用状態に膨脹するまでの時間及び6分後の気室内の内圧を測定する。	4	1	1) 常温で30秒以内に膨脹し、損傷等の異常がないこと。 2) 6分後の気室内圧は設計圧力であること。	使用状態とは安全性試験に使用できる状態をいう。
5		浮力試験	5			

	1	備付けのガスにより膨張し、初期浮力及び定員相当の荷重（水中定員は1人当り7.5kg、水上定員は1人当り75kg）をかけ、24時間後の浮力を測定する。		1	24時間後の浮力が定員相当荷重以上であること。	
6	1	安定性試験 淡水中の任意の1辺（円形の場合は1/4周辺）の救命索の握り部の中心ごとに、7.5kgの鉄片を吊り下げた時の乾げんを調べる。	6	1	上面の各部が水面下にあってはならない	
材料及び部品試験						
小型船舶用膨脹式救命いかだの気室布及び床布に係る試験、色度試験、退色試験、自動ガス充てん装置に係る試験、索具類の引張試験及び備考1～4までは、この場合において準用する。						